



地域に貢献する国有林の使命を果たす 矢野新局長着任挨拶

4月1日付けで九州森林管理局長を拝命しました矢野です。どうぞよろしく願います。

私は、平成24年4月から平成27年3月まで、ちょうど一般会計化を挟んで3年間、計画部長と森林整備部長を務めました。7年ぶりに九州局で勤務する機会を頂き、こうして見回しても当時一緒に仕事した皆さんの顔がたくさん見えますので、大変心強く思っています。またこうして皆さんと一緒に仕事ができるのが本当に楽しみです。

この7年の間には、熊本地震や度重なる豪雨災害があり、またこの2年ほどは新型コロナウイルス感染症への対応など、状況もいろいろと変わっていると思います。まずは、皆さんのお話をよく聞いて、地域に貢献する国有林の使命をしっかりと果たせるよう、皆さんと力をあわせて取り組んでいきたいと思えます。

今日は、皆さんにお話しする最初の機会なので、仕事への向き合い方について、私自身も心がけていることを少しお話ししたいと思います。

まず一つ目は、仕事は前向きにしようということです。

この局の部長でいた頃、林野庁に会議などで行くと、九州局の部長だというだけで他局から一目置かれるような雰囲気がありました。

それは、九州局が常に新しいことにチャレンジしている局だったからです。どこの局もやっていないことをまず九州から始めようという気概があったと思います。これは本当に九州局の良いところなので、是非そういう精神を忘れず、前向きに仕事に向き合ってほしいと思います。

それから二つ目は、仕事は主体的にしようということです。

皆さんも仕事をして給料をもらっている以上、森林管理や木材生産、経理などその仕事のプロであるはずですが、スポーツ選手でも歌手でも、受け身で仕事をしているプロはいないと思います。是非、自分の仕事に誇りを持って、主体的に仕事に取り組んでほしいと思います。やらされ仕事でやるのと自ら主体的に取り組むのでは、同じ仕事でも得られる経験や満足度は自ずと違ってくると思います。

最後、三つ目は、仕事は気持ちよくしよう

ということです。これは、気持ちよく仕事ができる職場にしようということでもありません。

その大前提は、まず安全です。しょっちゅう怪我人が出るような職場では、気持ちよく働きません。そして、風通しをよくして、しっかりコミュニケーションが取れる職場であることが大切だと思っています。これは、局長である私自身の重要な責務でもあります。職員皆さんの協力なくしては成し得ません。一緒に取り組んでいきましょう。



着任挨拶される矢野局長

コロナもなかなか終息せず、国際情勢も不安定な中ですが、少なくとも森林・林業に対する追い風が吹いている状況というのは、ここ数年ずっと続いていると思います。それゆえに、以前よりも注目される機会も増えたと思いますし、新たな課題に直面する状況も出てきていると思います。そんな時だからこそ、地に足をつけて、地元のみならず、市町村や関係業界など地域の皆さんと力を合わせて、国有林にできること、国有林だからこそできることにしっかりと取り組んでいくことが大切です。

私も先頭に立って、しっかりとその使命を果たしていきたいと思えますので、どうぞ皆さんのご協力をよろしくお願い致します。



挨拶を受ける職員の皆さん

小島局長退官挨拶

本日3月31日付で退官しますので、皆さんに最後のご挨拶をさせていただきます。

私は昭和62年に林野庁に入庁し、35年間の公務員人生でしたが、この間、九州局には2回勤務させて頂きました。

1回目は、熊本管林局時代の屋久島管林署長として、そして2度目は、令和2年4月から局長として、皆さんと一緒に仕事をさせて頂きました。屋久島時代を含めて、35年間を振り返るといろいろなことがありましたが、上司・先輩・同僚に恵まれ、楽しく充実した仕事ができたと考えています。ただ1つ、非常に残念で悔いの残る出来事がありました。それは屋久島署時代の重大災害事故です。除伐作業中の職員が、有害鳥獣駆除中のハンターに誤射されて死亡するという事故でした。今でも亡くなられた職員やご家族の皆様は大変申し訳なく思っています。

実は、同様な事故が20年後の2018年にも北海道局でも起きてしまいました。この2つの事故は、いずれも被害者にはまったく落ち度の無い事故でした。このような事故を含めて私たち国有林の職場

には多くの危険が潜んでいるということが、他省庁の仕事と比べて大きく異なっているところだと思います。

朝「行ってきます」と家を出て、元気に「ただいま」と家に帰ってくるのが仕事をやる上での基本です。是非、そういった安全な職場をつくっていくこと、また、職員の皆さんに安全を意識させることを継続していくことを大切にしたいと思えます。安全の確保は管理者等による指導が重要ですが、職員一人一人の自覚も必要です。また、私たち職員のみならず、国有林と一緒に仕事を行う事業者の皆さん、企業の皆さん、そういった方々の安全を確保することも発注者としての責務です。国有林の現場からは災害を出さない、という強い心構えをもって仕事を進めて頂きたいと思えます。

更に、良い仕事をするうえで、心と体の健康も大事です。風通しの良い職場作りを通じて、より良い仕事をして行って頂きたいと思えます。

さて、私たちの仕事を取り巻く状況は、コロナ禍、そして、今回のロシアのウクライナ侵攻により、

先行きが非常に不透明な状況になっています。しかし、1つはつきりしていることは、我が国の社会全体でSDGsや2050年のカーボンニュートラルに向けた取組が本格化し、森林や木材、その木材を生産する林業や木材産業への社会的関心が高まることにも、貿易における不確実性の増大ということが広く認識をされ、国産材に対する期待が高まっているということです。

国有林の仕事は、森林生態系の管理から森林整備、素材生産、国土を守るための治山事業、国有林の空間や土地を活用した地域振興と非常に幅広い仕事をしています。これからも、国有林の資源を活かし、地域に根ざした存在として、地域の皆さんから信頼される、そうした仕事を進めて行くことをお願いいたします。

また、私たちの仕事は、先輩から受け継いだものを自分たちの時代にしっかりと

と活かして、また、次の世代へと繋いで行くことが仕事の基本です。そのため、職員一人一人の中に蓄積されている知識や経験を、先輩から後輩へ、或いは縦横の連携を活かして、組織の力として発揮できるように仕事の進め方をお願いしたいと思います。

お願い每ばかり述べてしまいましたが、結びに、九州森林管理局が益々発展をして、職員の皆さんが健康で明るく仕事ができることを祈念申し上げてご挨拶とさせていただきます。

本日は、どうもありがとうございました。

また、私たちの仕事は、先輩から受け継いだものを自分たちの時代にしっかりと



退官する小島局長と局職員の皆さんで記念撮影

治山・林道工事コンクールの表彰式を行う

◆優良工事施工業者・現場代理人・監督職員◆

4月12日に新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、令和3年度治山・林道工事コンクール表彰式を九州森林管理局大会議室において実施しました。

このコンクールは令和2年度に施工した工事で、事業効果の発現が顕著なものについて、実施要領に基づく取り組みテーマ（コスト削減・技術提案・環境配慮・施工管理）に合致した工事の中から、優良工事が選定され、工事内容が良好で他の模範に当たると判断された、治山工事部門5社、林道工

事部門2社に対して九州森林管理局長賞の表彰を行いました。また、林野庁へ推薦した2社の工事が、林野庁長官賞（治山工事1社・林道工事1社）を受賞されたことから、当表彰に併せて局長より伝達表彰を行い、併せて当該工事の監理技術者、主任技術者及び監督職員に対し、九州森林管理局長賞を授与しました。

矢野彰宏九州森林管理局長からは、「今回の受賞は国有林野の厳しい地形条件、また長年にわたって培ってこられた技術、適正な施工管理、安全管理の



矢野局長から受賞者に祝辞

もとすぐれた工事をしていたいただいた成果が評価されたものです。本日の表彰は、その功績をたたえるものでありますし、皆様方の施工技術の向上にむけました長年のためめめ努力に對しまして改めて敬意を表する次第であります。国有林野事業に引き続きご尽力いただきたいと思います。祝辞がありました。

受賞者は次のとおりです。

◆林野庁長官賞

○ 柚園治山工事（関連災）

《宮崎森林管理署発注》

株式会社社長友組

代表取締役 長友 正憲

○ 折渡中村1027林道新設工事

《熊本南部森林管理署発注》

有限会社ふじもと

代表取締役 藤本 伸介

◆九州森林管理局長賞

【工事の部】

○ 岩越治山工事

《佐賀森林管理署発注》

山口建設株式会社

代表取締役 山口 貞彦

○ 島原温泉岳治山工事（3溪）

《長崎森林管理署発注》

大政建設株式会社

代表取締役 森山 澄江

○ 大江灘治山工事（関連災）

《大分森林管理署発注》

清川産業株式会社

代表取締役 江藤 龍治

○ 霧島山治山工事

《鹿児島森林管理署発注》

吉村工業株式会社

代表取締役 吉村 敏

○ 桜島地区治山工事

（長谷川上流）

《鹿児島森林管理署発注》

株式会社森山（清）

代表取締役 森山 組

崇

○ 池之河原林道大平支線新設工事

《宮崎南部森林管理署発注》

大平開発株式会社

代表取締役 津曲 道孝

○ 高野52林道新設工事

《大隅森林管理署発注》

株式会社桑原組

代表取締役 桑原 克幸

【技術者の部】

○ 柚園治山工事（関連災）

監理技術者 武本 勝博

（株式会社社長友組）

監督職員 東條 衣里子

《（宮崎署）（現福岡署）》

○ 折渡中村1027林道新設工事

主任技術者 篠宮 昭吾

（有限会社ふじもと）

監督職員 緒方 省一郎

《（熊本南部署）（現宮崎署）》

（担当Ⅱ森林整備課）



長官賞を受賞された藤本代表取締役



長官賞を受賞された長友代表取締役



各賞の受賞者と局関係者

島原市

眉山で小規模崩落発生 けが人や住宅被害なし

【長崎森林管理署】

4月18日午前、島原市の眉山において、崩落が発生していると市民から長崎県警及び長崎森林管理署に通報がありました。直後に、長崎県危機管理課が警戒対策本部を設置、情報収集を始めたことに伴い、長崎署では福山拓也森林技術指導官をリエゾンとして派遣し、眉山の管理者として責任を持って正確な情報が伝達できるよう、現地・本署・局治山課との連携に努めました。

結果的に崩落は東側斜面（2溪）の既存崩壊地の源頭部付近で幅20㍍・斜面長30㍍程度の小規模なも

のでしたが、崩落する瞬間が島原市に設置された定点カメラにとらえられ、崩落に伴い発生した土煙が隣接する住宅街に押し寄せた土煙が放映されるなど、島原市民に一時緊張が走りました。

長崎署では、直後に島原市職員と共同でドローンを飛ばし、崩落土砂が国有林内にどどまり、けが人や住宅などへの被害がないことを確認し、リエゾンを通じ警戒対策本部に伝達しました。また、当日午後には眉山治山事業所職員がヘリコプターで上空から眉山の表面の土砂が複数回崩れ、表面剥離

が起こったとみられることを肉眼で確認しました。
県の警戒対策本部は、長崎署からの「今後、多少の土砂流出はあるが、既存の治山施設で十分受け止められるため住民への被害や危険性はない」旨の説明により、17時過ぎをもって解散となりました。

また、翌19日には、山地防災が専門の森林総合研究所九州支所の黒川グループ長が、崩落の原因や今後、被害が拡大する可能性を現地調査しました。その結果、崩壊面は深さが30㍍程度で表面が崩落したと考えられ、岩盤の風化が進行し脆くなっていることを確認し、崩落は今後拡大する可能性もあるが、被害が出る規模ではない旨のコメントを頂きました。
しかしながら、降雨の状況によっては、崩落した土砂の下流域への

移動が想定されることから、土石流センサーや定点カメラによるモニタリング監視に努め、国有林野内で適切に処理できるよう引き続き、航空実播工による表面侵食の防止とともに、谷止工などで土砂の下流域への流出対策を進めることとしています。

眉山はこれまでも崩落を繰り返しており、大正5年から100年以上にわたり、国による直轄治山事業が行われています。「日本三大難山の二」、眉山を見ずして九州の治山を語ることはなかれ」と言われるほどの治山事業の難所とされている山でもあります。

長崎森林管理署では、引き続き市民の安全安心の為に、眉山治山事業の推進に努めてまいります。



崩落直後の眉山2溪（写真：市民提供）



住宅街へ向けて硫下する土煙（写真：市民提供）



ドローン撮影による画像を対策本部や市へ提供



山地災害専門家との打ち合わせ



表面浸食防止のため種子を散布



上：眉山土石流監視装置
（2溪カメラ画像）



下：山体観測システム
（第1溪流～第6溪流）

緑の募金贈呈式

4月12日に熊本市中央区のKKRホテル熊本で一般社団法人九州林業土木協会山本求道会長より、4月22日に九州森林管理局局長室で九州国有林採石協会中田博基会長より、それぞれ緑の募金が手渡されました。

九州森林管理局では、今年も緑の募金全国一斉強調月間である「みどりの月間」（4月15日～5月14日）に募金活動を展開していきます。

集まりました募金は、国土緑化推進機構と熊本市地域みどり推進協議会を通じて、身近な地域の森林（もり）づくりや地球温暖化の防止など、各種活動の活性化に活かされています。

（担当＝技術普及課）



九州林業土木協会様より募金



九州国有林採石協会様より募金

新任挨拶 よろしくお願ひします

令和4年4月1日付の異動により新しいポストに就かれた、地域木材情報分析官・4名の課長・5名の森林管理署長をご紹介します。



猪島 明久
いじま あきひさ

年齢 57歳
出身地 熊本県

地域木材情報分析官

前職 大分西部森林管理署長
抱負 新型コロナウイルスの流行に加え、ロシアのウクライナ侵攻などに伴い木材価格の高騰が続いています。まさにウッドショックに歯止めがかからない状況ですが、国産材供給の一翼を担う国有林にも、適切かつ柔軟な対応が求められています。

地域木材情報分析官として九州各地の需給情報の収集・分析等を通じてこれらの課題への対応に取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



廣田 忠善
ひろた ただよし

年齢 57歳
出身地 熊本県
前職 計画保全企画官（財産管理担当）

抱負 国民の共通の財産である国有林の保全管理に適切に努めるとともに、地域振興や地域住民の福祉の向上に寄与するための多様な活用等の要請については適切に対応しつつ、各地域で深刻化

保全課長

するシカ被害等鳥獣被害対策や病虫害防除・防止対策に向けた局・署等との連携及び情報交換等に取り組む所存です。

また、前職（企画官）で保全課の業務に携わった経験を活かしつつ、保全課業務の円滑な実施及び職員健康・安全を第一に災害のない明るい職場形成に取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願ひします。



林 友和
はやし ともかず

年齢 56歳
出身地 大分県
前職 屋久島森林生態系保全センター所長

抱負 近年、各所で集中豪雨等による山地災害が発生しています。治山事業は、地域の安全・安心の確保に向けて、治山ダムの計画的な設置や保安林整備等を通し、事前防災・減災対策に務めて参りました。

また、福岡県及び熊本県における民有林の大規模山地災害の復旧

治山課長

この取り組みが今日まで順調に進んで来たのは、局・署職員の日々の努力と研鑽に依るところ大だと思います。

引き続き、職員健康と安全の確保に向け「災害のない健康で明るい職場の確立」に努めて参りますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



高木 周一
たかぎ しゅういち

年齢 57歳
出身地 熊本県
前職 森林整備部企画官（供給戦略担当）

抱負 新しい林業の実践に向け、地域の需給動向を的確に把握し、木材の安定供給、資源の有効活用、生産性の向上、収穫調査の簡素化、効率化に取り組むとともに、職員安全と林業経営体等の災害件数の減少に向け、局署等の皆様と連携を密にしながら取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

資源活用課長

技術普及課長



奥村 克
おくむら まこと

年齢 57歳
出身地 熊本県
前職 計画保全部自然遺産保全調整官
抱負 これまでどおり職員の皆様と語り合いながら、安全と健康を第一に各業務を前に進められるよう取り組んで参ります。

これまで諸先輩方が取り組まれた各課題等については、各部署及び各署等と情報の共有を図りながら、関係者の皆様方と連携を密にし、その成果等について広く民有林へ普及させることが重要と考えています。

また、人材育成や森林総合監理士等の活動の実施など民国連携を一層推進するとともに、各研究機関、民有林行政等の皆様と連携しながら森林・林業への国民の理解が得られるよう前に動き取り組んで参りますのでよろしくお願いたします。

熊本森林管理署長



井上 智晴
いのうえ ともはる

年齢 58歳
出身地 熊本県
前職 地域木材情報分析官
抱負 熊本森林管理署は初めての勤務となります。安全、健康に留意し、職員の皆様とともに、風通しのよい明るい職場づくりに取り組んで参ります。

また、管内には金峰山や菊池渓谷などがあり自然探勝、登山、ハイキングなど、国有林に多様な森林レクリエーションが期待されています。

併せて、主伐・再造林、間伐など森林整備を通じた森林の多面的な機能の発揮、豪雨災害の復旧、民国連携した林業・木材産業の推進、地域や関係機関と連携した森林づくりなどに取り組んで参りますのでよろしくお願いたします。

大分森林管理署長



坪木 直文
つぼぎ なおふみ

年齢 57歳
出身地 熊本県
前職 近畿中国局岡山森林管理署長
抱負 28年ぶりの九州局での勤務で、大分での勤務は初めてとなりますが、地域との連携を緊密に行い、地域から信頼され必要とされる組織となるよう各種取組を展開して参ります。

また、当署管内の国有林は主に、くじゅう連山、由布岳、祖母・傾山系などに所在し、優れた自然景観に恵まれ、豊かな自然環境を有しており、「祖母山・傾山・大崩山周辺森林生態系保護地域」等の保護林の適切な保全・管理や「くじゅう山風景林」等のレクリエーションの森の適正な利用に取り組むとともに、公益重視の管理経営に向けた森林整備や治山対策等に着実に取り組んで参りますので、よろしくお願いたします。

西都児湯森林管理署長



佐藤 敏郎
さとう としろう

年齢 57歳
出身地 宮崎県

北薩森林管理署長



富永 雄二
とみなが ゆうじ

前職 治山課長
抱負 西都児湯署は県内のほぼ中央部に位置する一ツ瀬川森林計画区に当たり、流域全体の約7割が森林となっています。また、管内1市5町1村すべてに国有林が存しており、これまで自治体と連携した様々な取組など良好な関係が築かれています。

令和4年度から第6次地域管理経営計画がスタートするこの機に、職員の皆さんと一体となって国有林がますます地域に評価されるよう取り組んでまいりますので、よろしくお願いたします。

前職 資源活用課長
抱負 前職の資源活用課長在職中には新型コロナウイルス感染症の拡大による木材産業等への影響に対処するための国有林材の供給調整に取り組む中で、国有林材の安定供給、計画事業の完遂など大変お世話になりました。

今回、5年ぶりの署勤務となり現場第一線で働ける喜びと、大雨等の気象害も含め先の読めない情勢の中で、地域等からの多様な要請や国有林への期待に 대응することへの難しさなどを感じていることです。

引き続き、低コスト造林や生産性の向上など「新しい林業」の推進、定着に向け地域林業へ発信源になることを目標に取り組んでまいります。

そのためにも、まずは安全に留意することを第一に職員が健康で明るくやりがいを持って業務に取り組める環境づくりに努め、地域の声を聞き、地域に根ざした森林管理署であることを目指してまいります。

大隅森林管理署長



年齢 54歳
出身地 熊本県
前職 林野庁林政部経営課課長補佐



神崎 弘治
かんざき ひろはる

抱負 初めての九州局勤務となります。

職員の皆様とともに、健康で災害のない明るく風通しのよい職場づくりに努めてまいります。

また、公益重視の管理経営の取組、木材の安定供給や生産性向上、再造林の低コスト化等による新しい林業への貢献、国有林の人材やフィールドを活用した地域の課題解決に当たっては、関係機関等と連携し、地域の方々に国有林（森林管理署）があつてよかつたと思われよう、職員の皆様と一体となつて取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

新規採用研修及び 基礎全般研修の 前日程を終える

4月18日から19日の2日間において、令和4年度一般職員採用者15名を対象に新規採用研修を実施しました。

矢野彰宏局長の訓示をはじめ、川戸英騎次長、岩井広樹総務企画部長からの講話、一重喬一郎企画

調整課長からは、「九州局の取り組み事項」について分かりやすい講義をしていただいた後、岩下隆徳総務課長他業務担当者から「職員の健康安全」「公務員倫理」「人事評価・ハラスメント防止」「各課の概要」等についての講義を受けました。

引き続き4月20日から22日の3日間において、基礎全般研修（前期）を実施し、総務課各係の業務・経理課各係の業務・企画調整課から「情報セキュリティ」「各システムの基本操作等」・計画課から「森林調査簿等の見方」の講義を受けました。

5日間の短い研修でしたが、各講義等に対して研修生全員が真剣



新規採用研修に参加した研修生と局関係者

に取り組み、質問も積極的に行うなど活気のある研修となり、受講している研修生の姿を見ていると、今後の国有林野事業の明るい未来が見えたように感じるところです。最後に局長はじめ、幹部の皆様、今回の研修にご協力いただきました講師の皆様にお礼と感謝を申し上げます。

（担当＝研修主任官）

令和4年度みやざき林業 大学校第4期入校式

【宮崎北部森林管理署】

4月12日、宮崎県林業技術センターにおいて、みやざき林業大学校の第4期生となる男女合わせて21名の入校式が関係者、来賓、保護者等が参加のもと挙行されました。

宮崎北部森林管理署から古島勝美署長が来賓として出席し、式典では河野俊嗣宮崎県知事から「宮崎県はスギ生産量日本一を30年継続している林業県である。担い手不足という課題もあるが、生態系や地球変動を守る重要な仕事であり新規就労者に期待がかかっている。森林林業の成長産業化に誇りをもって貢献していただきたい」との告示がありました。

来賓では田中秀俊美郷町長から「森林林業について学び必要な資格を取得し、伐つて、使つて、植えて、育てての林業を目指し、ま



第4期の入校生と式に参加された関係者

長野県林業大 学校生が来署

【屋久島森林管理署】

4月20日、入学して間もない長野県林業大学校1学年生20名と職員2名が校外研修の一環として、屋久島の森林・林業を学ぶため昨年度に引き続き屋久島署安房貯木土場を訪れました。

まず、黒田伸博総括森林整備官から「屋久杉の歴史及び小杉谷の歴史並びに現況」について資料説明を行い、その後ヤクスギ土埋木に実際に触れながら、特徴（木目・香り・重さ・光沢・販売価格）や平木など具体的に説明した後、学生からの質問に回答しました。

学生からは、「屋久杉と小杉、地杉の違いは」「土埋木は屋久杉なのか」「なぜ、土埋木は腐らないのか」「屋久島はスギだけではなく、なぜ他の樹種も大きいのか」「土埋木は、山にどれだけ残っているのか」「費用対効果の程度は」等々さすがは林業を志している学生らしい質問が出され関心の高さを感ぜさせられました。

林相や森林の取扱いの違う屋久島の森林・林業を学んで頂くこと

は重要なことであり、これからの日本の森林・林業を担う人材になってもらいたいと大いに期待しています。

当署では、本年度も外部からの研修等の受け入れを積極的に行い、人材育成の一助となるよう努めていく考えです。



大学校生に説明する黒田総括森林整備官

市房山山開きで安全祈願

4月16日、本格的な登山シーズン到来に合わせ、水上村の市房山キャンプ場において、市房山山開き安全祈願祭が開催されました。

式典は、水上村、同村議会、熊本県、警察、消防関係者等に加え、当署からは赤星良治署長ほか合わ

せて約20名が出席し、祝詞奏上や玉串奉典、テープカットが行われました。

その後、水上村長の挨拶に続き、赤星署長から「ここ市房山は、貴重な動植物が多く、国の天然記念物のゴイシツバメシジミの生息地でもあり、関係者の皆様のご協力をいただきながら保護に努めている。また、令和2年7月豪雨の影響で、登山道は一部通じづらくなっている場所等もあり、油断が災害に繋がる。ルールやマナーを守って、安全第一で登山を楽しんでいただきたい」と来賓挨拶を行いました。

当署としては今後とも、地元水上村等と連携を図りながら登山者の安全や貴重種の保全等を図っていくこととします。



山開きでテープカットする出席者

都会の中の憩いの森

監物台樹木園の多様な植物



空であることからの名前が多く、マルバウツギも例のごとく中空です。

174 マルバウツギ(ユキミダ科)

初夏の陽気に誘われて森を歩くと、がけつぶちに垂れ下がり幹いっぱい花をつけたマルバウツギに驚かされます。

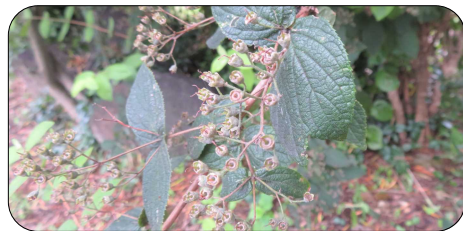
葉身は卵円形または卵形、鈍頭、まれに厚く短く鋭尖した鈍端、縁は不ぞろいの鋸歯かまたは微凸鋸歯があります。

花が咲いているときの同定は確実にできます。花のすぐ下の葉が無柄で茎を抱いていることを確認します。そのほかの葉は短柄があります。このことが一番の同定点です。

葉裏脈上に柄のある星状毛、あるいは葉の表裏の星状毛を観察しましょう。柄のある星状毛が見えたら最高です。

森林インストラクター

安楽行雄



「助六寿司はいくら食べても太らない」これは同じ職場に勤務している職員が唱えている説です。本人曰く、「どんなに食べても大丈夫」とのことでした。

▼ある芸人が言っていた「カロリーゼロ理論」を思い出しました。「ドーナツは穴が開いているからカロリーゼロ」、「ご飯は白いからカロリーゼロ」といった調子で、どんな食べ物でもカロリーがゼロになってしまします。▼ゴールデンウィークも終了し、気温がだんだんと上がってくる季節になりました。▼沖縄県は例年5月上旬から梅雨時期に入り、湿度が高い状態です。また、気温も高く、立っているだけでも汗が流れてくるほどで、熱中症への注意が欠かせません。▼現場業務の時には経口補水液や経口補水ゼリーを携帯して、こまめな水分補給や塩分補給、適度な休憩をとって熱中症対策に取り組んでいます。▼各種調査もどんどん始まり、西表島の暑く長い夏がすぐそこまで迫ってきました。暑さ対策を万全にして「熱中症ゼロ」はもとより「公務災害ゼロ」を目指して頑張っていきます。

(風)